

座長 飛騨 一利 (札幌麻生脳神経外科病院)

LS8 手外科専門医が解説する運動器と女性ホルモンの関係について  
～ばね指は使いすぎ？ヘバーデン結節は歳のせい？～

Relationship between exercise equipment and female hormones

国立病院機構仙台医療センター 形成外科手外科

とりやべそうはち  
○鳥谷部 荘八

日常診療において多く認められるばね指やドケルバン病は狭窄性腱鞘炎と称され、「使い過ぎ」であると言われる。安静を指示し、腱鞘内注射など対症療法を行う。しかし患者はそれほど使っていないと訴える。利き手でない手が腱鞘炎になることも多い。また手指の痛みと変形で多いものとして、ヘバーデン結節、ブシャール結節、母指CM関節症の変形性関節症があり、これらは「歳のせい」というふうに片付けられ、患者をしばしばがっかりさせる。「まだ40代なのに・・・」と。手指のしびれで最も多い手根管症候群は詳細な原因は不明で、女性に多い。

これら手指のトラブルの多くは対症的に薬が処方され、ブロック注射が施され、あげくは手術に至ることもある。患者によってはすべてに罹患し、悩まされることもある。しかしこれらは症状が個々に現れているに過ぎず、病態は共通していることがわかってきた。実は女性ホルモンと深く関与していることがわかってきたのである。

今回は手外科医が手指のトラブルと女性ホルモンの関係、その対策とエクオールを中心とした治療法について詳しく解説する。このエクオールとは、大豆イソフラボンの代謝物であり、女性ホルモン様作用があることが報告されている。加えて、肩こりや骨粗鬆症と女性ホルモンの関係、それらの対策についても触れる。手指が良くなって、肩こりが改善し、しみやしわが良くなる・・・？ そのような話題を提供いたします。

Keyword : 女性ホルモン (female hormones)、変形性関節症 (Osteoarthritis)、腱鞘炎 (Tendonitis)